

解説

自ら苦勞して得られた成果を人に分け与えることは幸せにつながる

廣池千九郎

大分県中津市生まれ。教育者、歴史家、法律学者。世界の中で日本の皇室がなぜ連綿と続いているのか、この問いを探究した結果「(皇室の)質の高い道徳の実行にある」と結論を見出し道徳こそが人類の安心・平和・幸福の基礎であると考へ、大正十五年に『道徳科学の論文』を完成させ、モラロジーを広く世に提唱した。

自ら苦勞して

これを人に頒わかつ

廣池 千九郎

神社は心のふるさと

未来に受け継うるわごう「美しい国ぶり」

「竈神様」への誘いざなひ 知識への

煮物、焼き物、炒め物。日々の食事の支度に必ず必要なものは「火」です。この台所で使う火を護る神が竈神です。現代ではあまり見かけない竈ですが、以前は家庭のシンボルとしての意味合いもありました。「竈を分ける」といえば世帯を別にする、「竈賑わう」といえば生活が豊かになるなどの言葉がそれを現しています。神道では、奥津日古神・奥津比賣命・火産靈が竈神とされておりますが、後の世になると祀まつられ方にも変化が見られ、仏教を由来とする三寶さんぼう荒神あらかみじん(仏・法・僧を表す三寶を護る荒神)

も祀られるようになりまし。これは、不浄を嫌う三寶が清浄である竈に祀られるようになったとの説もあるようです。

竈神の祀り方には、地方や各家でそれぞれ祀り方があります。囲炉裏いろりの時代は直上の屋根裏に祀ることが多かったようですが、現代では主に台所の一角に棚を設けて御神札や幣束へいそくを祀ることが多いようです。ですが、祀り方に正誤はありません。火という、有り難く、且つ恐ろしいものに畏敬の念を表わすことは、人として自然なことと思います。

今月の祭日

大正天皇例祭(二十五日)

宮中三殿のうち皇靈殿でお祭りが行われ、多摩陵においてもお祭りが行われます。

天皇皇后両陛下をはじめ皇族方がご拝礼なされます。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

